

令和5・6年度 第2回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時 令和5年10月27日（金）午後2時から午後4時まで

場所 池上文化センター第1集会室

出席者 名和田委員（会長）、倉持副会長（副会長）、石垣委員、大島委員、
加藤委員、小林委員、白鳥委員、豊島委員、野川委員、広田委員、
溝口委員（役職・50音順）

※阿部委員、海老澤委員、松橋委員欠席

1 開会

【会長挨拶】

- ・今日は、ワークショップ形式で存分に話し合いたい。第1回目の推進会議は、この会議自体の性質や生涯学習推進プランについての話が主だったと思うが、非常に多様なご意見をいただいた。今回も後半に意見交換が予定されているので、さらに深掘りをして、意見をいただきたい。

【会議の公開について】

- ・推進会議設置要綱第7条に「策定会議は、原則として公開とする。ただし、
1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、
2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、
3 会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。
本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。
- ・会議結果については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホームページに公開する。

2 文化センター見学

【見学後の質疑応答】

（文化センター所長）集会室の主な使われ方として、最も多いのが趣味活動

33%、会議・研修・講習・講座が18%、音楽練習（声楽練習等）が9%となっている。体育室の利用では、バドミントンが51%、卓球が20%、バレーボール6人制、9人制合わせて14%である。統計は取っていないが、週1、隔週、月1回利用する団体が多いと思われる。文化センター窓口では、団体の運営などに係る相談事を受けることはほとんどない。施設の利用方法等についての問い合わせがほとんどである。ただ、現場で利用者から聞こえてくるのは、会員の高齢化等によるメンバー減少、団体の存続が厳しいということ。現場としてできる範囲の対応をしている。ロビーの掲示板に会員募集のチラシを掲示し、それに関する問い合わせなどに対応することもある。

（副会長）エントランス部分にテーブルがあったが、予約しないで使用することはできるか。また、どのような使われ方をしているか。

（文化センター所長）予約せずに使用することができる。入口部分の丸いテーブルは、サークルの打ち合わせや印刷の作業などをするために使用されている。受付前の机は、施設の予約に来館した人が使用していることが多い。

（委員）ロビーの掲示板に掲示するための条件は？

（文化センター所長）社会教育関係団体であれば、申請があれば掲示できる。一般の利用者から掲示の希望があった場合には、内容を確認のうえ掲示している。

（委員）来館しないと利用申込みができないと聞いたが、それはもう少しどうにかできないか。

（文化センター所長）来年10月分からネットで利用申込みができるよう準備を進めている。

（委員）施設利用の条件、区分はどうなっているか。利用者は把握しているのか。

（文化センター所長）少年育成団体は7週後、社会教育関係団体は6週後の予約ができる、というように団体の区分に応じて優先的に受け付けている。一般の利用者は4週後の分について、予約を受け付けている。

（委員）平日と休日、午前と午後の使用状況について違いはあるか。

（文化センター所長）

平日と休日の比較では、休日の方が希望する団体が多く、抽選となることがほ

とんどである。センターの全ての諸室の平均利用率は、約 82%であり、区内でも上位の利用率となっている。交通の便が良いことが要因と考えられる。

体育室は、空いている枠が毎月非常に少ない。午前、午後では利用率に大差はないが、体育室以外の諸室は、夜間の利用率が若干下がる。

（委員）調理室は池上会館にもあるが、そちらの利用率も低いのか。施設のことを見ていくときは、同じ地域の中で両方みていかないといけないのではないのか。

（文化センター所長）他の文化センターでも、調理室の利用率が若干低い傾向がある。

（委員）センターのおまつりはあるのか。利用サークル以外で普段センターに来ていない人はどの程度来るのか。

（文化センター所長）例年秋に文化センターまつりを開催している。今年は 11 月 11、12 日に 3 年ぶりに開催予定。昨年度は、嶺町文化センターのみ、まつりを開催した。おまつりの参加者のうち、サークル会員の集計を取っていないため観覧者と合わせた数値となるが、令和元年度（令和 2～4 年度は新型コロナのため開催なし）は、2 日間合計で 1,187 名が来場した。

（事務局）基本的には文化センターの利用サークルが中心となって運営・交流する機会となっているが、子どもが中心のサークルは家族が来場したり、近隣に小中学校がある場合はそちらに声をかけたりと、普段利用しない人が来館する機会ともなっている。

3 議題

（1）第 1 回「おおた生涯学習推進プラン」推進会会議 振り返り

（2）事例紹介

【会長】

- ・事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・（資料に基づき説明）

【会長】

- ・事務局からの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。

(意見・質問なし)

4 意見交換：地域力を育む学びの場とは

【会長】

- ・ 意見交換のテーマは、「学び始めたくなる場とは」と「学びとつながりの循環が生まれる場とは」の2つ。2つのテーマを截然と区切ることができるかわからないが、一つのテーマごとに意見交換をお願いしたい。
- ・ 意見交換はグループごとに行っていただき、各テーマについて15分ずつとする。15分経ったら、各グループから発表をお願いしたい。
- ・ 今回は、自由にアイデアを出し合うことが目的。現段階では、どこの施設にどの機能を置く、各施設の役割はどうあるべきか、までは考えなくてよいので、まさにこういう場があったらもっと学びたくなる、人と人とがつながりやすくなる、といった発想で自由に発言頂きたい。
 - 2つのグループに分かれて意見交換を行った後、各グループから発表を行った。

【グループ1】 進行：倉持副会長、メンバー：石垣委員、加藤委員、小林委員、野川委員

【グループ2】 進行：大島委員、メンバー：白鳥委員、豊島委員、広田委員、溝口委員

(1) 学び始めたくなる場とは

【グループ1】

- ・ (委員) 学びを始めたくなる場とは、身近な場所ではないか。自分に関心のあるテーマがあると良い。それぞれの年齢で興味があることはそれぞれの年齢でないと話ができない。安心して身近な人たちと相談や話し合える場があると良い。
- ・ (委員) パソコンで色々と完結できるようになったが、情報の真偽がわかりづらくなるため、公的なところで実施されたほうが安心できる。
- ・ (委員) 最近新しく料理を学び始めたときにYouTubeを利用した。図書館に行かなくてもインターネットで完結することが多いが、材料を買いに行ったところで新しい情報をもたらした。一步外に出ることで新しい展

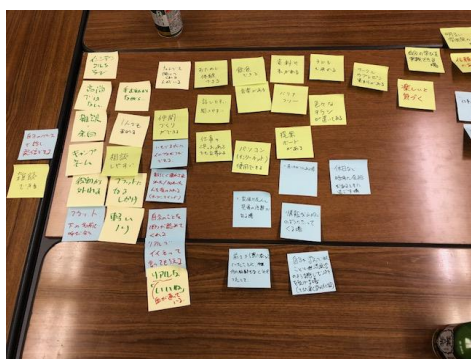
開が起きることを感じた。

- ・（委員）世の中に正しい情報、そうではない情報、ある人にとっては正しい情報でも自分に照らし合わせると正しくない情報がたくさんある。その答え合わせができる場所が大事だと思う。
 - ・（委員）行政の施設には様々な団体のチラシがあるが、来なければ見られない。ウェブ上に整理されていれば、施設に来るきっかけになるのではないか。インターネットが普及してきたので、来なくても見られることが大事なのではないか。
 - ・（委員）10年ほど前にリタイアして、初めて地域を知ろうというきっかけになった。地域で学びたくなるきっかけという観点でいうと、人生の中で地域と関わりのある世代は年齢によって違う。小学校までは地域の学校に通うため地域と関わるが、中学・高校・大学で地域から離れて、社会に出ると全く関わらなくなり、リタイアしてはじめて地域に関心を持ったというところ。地域に関心を持ち始めたきっかけは「地域デビュー」である。なにをしたらよいか全くわからなかったが、ちょうどその頃、団塊の世代が大量に退職されるため、大学や自治体が地域の受入れのための講座を行っていた。
 - ・（委員）会社に勤めていた男性にとって「地域デビュー」は重要な入口になる。人生のステージの中で地域と関わる場所は人それぞれではないか。人生の中でいつ必要になるか考えればよいのではないか。
 - ・（副会長）ライフステージで地域の接合点がある。まず入門があると参加しやすい。また、同じ関心を持った人が集まる安心感がある。
- （まとめ）（副会長）
- ・身近な場所や身近なテーマが学び始めに必要。
 - ・世代や状況によって、身近なテーマがあると参加しやすいという話があった。一方、今はインターネットで情報が溢れているので、自分にとって必要な情報はどれだろうということを考えたり、相談出来たりする場が身近にあれば、ニーズがあるのではという話が出た。
 - ・チラシがオンライン上で手に入るようになれば、選択の余地が増えるのではという話もあった。

- ・ 世代ごとに地域に出るタイミングがある。例えば定年退職だとすると、「地域デビュー講座」などがあると参加しやすい。そのようなタイミングをうまく捉えるとよいのではないか。
- ・ 安心感や同じような関心を持つ仲間と出会えることがキーワードになりそうである。
- ・ こどもの参加については、こどもの数が減っていると同時に参加の仕方も変わってきているのではないか。どのようにこどもの参加を促すことができるか、というところで時間切れとなった。

【グループ2】

- ▶ 付箋にキーワードを書き込みながら、各委員の学び始めの体験を語り合うスタイルで意見交換を行った。
- ▶ 委員から出された意見は別紙のとおり。



(まとめ) (委員)

- ・ 委員の学び始めの体験を共有していったところ、普段の役割を取り外すことができるのが学びの場ではないか、という共通点があった。
- ・ 一つの言葉に励まされたり、次の世界が見つかるきっかけになったりすることがそれぞれの委員の経験の中に共通してあったのではないかと感じた。

(2) 学びとつながりの循環が生まれる場とは

【グループ1】

- ・ (委員) 大田区のことについて取り組み始めたのは、区民企画講座がスタートであった。同じテーマの中で講座を行っているうちに、自然と受講者と企画員が団体を作って活動を続けている。団体によって年配の男性が多い等、色々な特徴がある。

- ・ (委員) 様々な分野の話を聞くと自分の関心事が変わってきた。はじめは地理が好きだったが、歴史に広がり、福祉という観点も必要だなと思った。テーマに関することでスタートしたが、地域全体の活動がなんとなく見えるようになってきた。循環するとはそういうことかと思う。
- ・ (委員) テーマが広がるきっかけは、一緒にやっている仲間の関心事からのこともあるし、一流の先生の話聞いて刺激を受けて、ということもある。
- ・ (委員) こどもから地域の関わりが始まったので、リタイアされた方が地域で活動を始めるときの理由はこういったことからか知りたい。
- ・ (委員) 今住んでいるところで生涯暮らすならば、地域を知った方がいいと思った。最近は地域のために役立つことをしたいという気持ちになっている。
- ・ (委員) (活動の仲間とは) 会社勤め時代のような上下関係はなく、フラットに付き合っている。
- ・ (委員) 定年が近くなると不安もある。例えば、ネットワーク、収入など。生涯学習をやりたくても、欲と二人連れになるようなものがないと多分続かない。お金、人間関係、安心など、欲はどんどん変わっていく。
- ・ (委員) 複数回の講座中1回だけ受講したい人もいる。そのような人には、インターネットでの参加でもよい。わざわざ会場に来なければいけない時代ではなくなっている。
- ・ (委員) 場所の概念に捕らわれずに、IT空間もある。一つに絞るとうまくいかないのではないか。また、毎週会わなくてもよい。そういう固定概念を捨てた方が生涯学習はゆったりするのではないか。
- ・ (副会長) 地域のコアでずっとやっている人もいるし、たまに参加する人もいる。参加の度合いを少し広げないと新規参加者が増えない。新規参加者が活動をのぞく機会があれば、参加しやすくなるのではないか。
- ・ (副会長) 生活スタイルも変わってきているので、同じ熱意と頻度で継続的に参加することをみんなに求めるのは重いと思う人もいるのかもしれない。
- ・ (委員) 同じような年齢の人が集まって10年経つと団体から徐々に退

会していく。新しく入ってもらおうと思ってもなかなか難しい。循環するためには、世代交代ができるような仕組みをつくらないといけない。

- ・（委員）青少対（青少年対策地区委員会）は、長年に渡りコアになって動いてくれる人もいらっしゃるが、地域や学校から入れ替わりで人材が集まる仕組みがある。

（まとめ）（副会長）

- ・ 会社員生活時代は地域に関わってこなかった委員が今ではとても地域で活躍されているというプロセスが、まさに学びとつながりの循環の好事例ではないか。区民大学などの学びの中で仲間と出会い、団体を作り、関心やテーマが広がった。活動していくうちにネットワークも広がり、地域に関心が向くようになった結果、現在では地域で様々な委員を担われているというプロセスを伺った。
- ・ こちらのチームには長年地域で活動される委員もいらっしゃる。なぜ学びから地域に関心を向けられるのかなどのお話を聞き合った。例えば、会社員である人からすると定年退職はひとつのきっかけである。欲と二人連れという言葉も出たが、お金・人間関係・人との繋がりなど、学ぶこと以外にその人にとってなにか得られるものがあると学びの活動に繋がっていくのではないかという話があった。
- ・ 連続講座など、長い時間かけて取り組むものについては、その密度や頻度で通えない人もいる。単発での参加や、オンラインでの参加が可能になるなど、開かれていることも必要なのではないかという話が出た。
- ・ 団体が立ち上がっても人が減ったり存続が厳しくなったりする団体が出てくる。どのように世代交代したり新しい人に入ってきてもらったりするかというところを考えなくてはいけない。こども関係の活動は継続的に何十年も行っている。そのようなところから学ぶものがあるのではないか。また、次の支援者が入替わる仕組みがあるのではないかという話で終了した。

【グループ2】

- 付箋にキーワードを書き込みながら、意見を話し合う形で進行された。
- 委員から出された意見は別紙のとおり。

- ・ (委員) 仕事から離れて新たな自分が見えることがある。
- ・ (委員) そもそも知らなかった人とつながるときは、出会って話をして、興味関心が共通して、やってみよう、となる。その人が別のことを紹介してくれる。というのが自分で経験した学び、つながりの循環。
- ・ (委員) 学びの場で今まで関係したことがない人と集まるときに、下の名前でも呼んでもらうようにすると、年齢関係なくつきあえるようになる。
- ・ 年齢などを超えて、フラットな関係が築けることが楽しい。
- ・ (委員) 楽しい、発見があると続く。
- ・ (委員) 軽いノリでやろうと思ったときに、次のステップ行くまでが支援が必要になる部分。金銭的なこと、場所のことなどで次につながらないことがある。そのハードルを下げる支援が必要。
- ・ (委員) 活動が続けていると思った形にならないことがある。活動の運営上のルールなども助言してくれる人がいると良い。
- ・ (委員) 余韻・インパクトがあると次につながりやすい。オンラインよりも実際に会って、雑談ができると次につながりやすい。
- ・ 余計なことを話していて良い場があると良い。
- ・ (委員) 反強制的に参加する活動の中で、インシデンタルな学び、副次的な学びがあり、思いがけず続いていくことがある。
- ・ 一見無駄な時間が大切。

(まとめ) (委員)

- ・ 無駄なこと、というのが話題の中心であった。
- ・ 続く、出会うというのは、目的、合理的な行動というよりは、何かをやっているうちに相手に興味を持ったり、会いたくなったり、新しい情報をもらったり、というのが循環だと考えた。
- ・ 具体的に手を動かしながら、余計な雑談をしていると、相手のことを知りたくなったり、興味を持ったりすることが多い。

【会長】

両方のチームの話を断片的に聴いていたが、非常に感銘を受けた。大島先生のチームの方では、仲間づくりという話が少し出ていた。仲間を作るということは、これまで仲間でない人と出会うということだが、その場合、ロビ

一空間の作り方が重要になるのではないか。知らない人と出会って、どう発展していくか、というときに雑談の効用という話も出ていた。つながりを作ろうと目的意識をもってやるよりも、意外と雑談がきっかけでつながるということもある。

深い経験をお持ちの委員の話に感銘を受けた。学びをきっかけに地域で活動されるようになった。学ぼうと思ったきっかけに定年退職をして何かをやりたいと思った、誰しもそう思うと思うが、学ぶ、というのは敷居の低いきっかけとなる。そのあとどのように展開されたか、ということに非常に感銘を受けた。

大島先生のチームについては、材料がたくさん出ている。先生の知見もいただきながら、整理をすればヒントがある。一枚一枚眺めるだけで、色々な思いが湧いてくる。

倉持先生のチームについても、事務局が記録をしていたので、参考になるはずである。

また、今回も意見書を提出いただくことができる。本日は、とても深い、多様な材料が出ている。この後は事務局の腕の見せ所なので、倉持先生と大島先生のお知恵も借りながら、第3回の材料として活かしていただきたい。

本日、不完全燃焼な感じもあったかもしれないが、第3回に必ず結び付ける。議事を終了し事務局に進行を戻す。

5 閉会

【地域力推進部長挨拶】

会長にまとめていただいたように、本当に活発な意見をうかがうことができ、非常に良い会議だったと思う。会長及び先生方にお礼申し上げます。

本日の話の中でも「つながり」という言葉があったが、ちょうど今文化センターまつりが行われている。令和2・3年度は全て中止、令和4年度一箇所のみで開催。いくつかの文化センターまつりに行ったが、多世代が交流している様子を目の当たりにした。展示では絵画、書、陶芸などがあったり、地域の研究の発表をしていたり、様々な活動があることを実感した。まつりを通して、

普段それぞれ活動している団体が、融合していくのが非常に大事なことだと感じた。まさに、これがつながりだと感じた。今後も順次文化センターまつりが開催されるので、委員の皆さまもご興味があれば、見学いただきたい。また、池上駅4階には新しい形の図書館があるので、お時間があれば見学していただきたい。次回は嶺町集会室で行う予定であり、また雰囲気が違うところもご覧いただけたらと思う。本日は、貴重な意見をいただき感謝申し上げます。

【事務局】

- ・ 第3回推進会議は、令和6年1月19日（金）14時から嶺町集会室にて開催を予定している。改めて事務局から通知するがご予定いただきたい。
- ・ 11月27日（月）に区民から意見をいただくことを目的としたワークショップを開催する。
- ・ 追加のご意見は、事務局に送っていただきたい。
- ・ 以上をもって、閉会とする。

以上

【会議後に委員からいただいた意見要旨】

- ・ 「文化センターのうち3つの文化センターに対し、指導員（コーディネーター？）を週1～2回訪問させる」と話されたが、これが地域の「学び」の継続性に効果があるのか疑問である。地域課題解決は、地域の人々が主体的に活動することで、上から目線の指導員がスポットで行うより、地域の人々からコーディネーターを育成し、継続的につなげ広げていくことが重要である。指導員はスキルを保有しているが、雇用が短期（1～2年）で継続性も期待できない。定期的にコーディネーターの育成を行い、地域内で世代交代できる仕組みが必要である。
- ・ （大田区社会教育関係団体）登録団体数1,997団体とあったが、この数字が生きた数字か、「登録」という定義に甘えていないか考慮する必要がある。
- ・ 文化センターを利用している団体には、多様な活動の種類があることがわかった。一方で同じような活動をしている別の団体もある。お互いが活動している様子や、休憩時間等に気軽に話しかけられる場づくり、さらには通りすがりの人もそこに加われるような場があると良いと感じた。